

平成 29 年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

教育委員会事務局



目 次

小学校社会科資料集「ふるさと飛騨市」改訂版の作成	1
J F Aこころのプロジェクト「夢の教室」開催事業	2
教職員研修及び児童生徒体験学習の充実	3
ふるさと教育推進事業	4
スクールバス更新事業	5
育英基金給付型奨学金制度の創設	6
部活動各種大会出場補助金	7
公民館トイレ改修事業	8
古川町中野区公民館整備補助事業	9
図書館自主イベント事業	10
デジタルアーカイブ事業	11
古川祭研究事業	12
江馬館名勝指定記念イベント事業	13
江馬氏館跡整備活用事業	14
姉小路氏関連城館群（山城跡）整備活用事業	15
埋蔵文化財発掘調査等事業	16
生涯学習推進事業（公民館講座・歴史講座）	17

小学校社会科資料集「ふるさと飛驒市」改訂版の作成

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,748	一般財源 1,748	印刷製本費 1,350 報償費 360 旅費 38
(前年度現計 398)		

2 事業背景・目的

平成21年3月に、次世代を担う子供たちがふるさとを愛する豊かな心を育むため、市内4地域でそれぞれ活用していた「郷土古川」、「ふるさとかわい」、「郷土みやがわ」、「飛驒の神岡」を統合編集し、小学校社会科資料集「ふるさと飛驒市」を刊行しました。しかし、作成してから7年が経過し、社会情勢の変化や教科書改訂等に伴い内容を見直す必要があることから、平成28年度に学習資料作成検討委員会を設置し、改訂内容について検討を行ってきました。

その検討結果を踏まえ、小学校高学年の子供たちが社会科授業で活用しやすく、また、小学生のみならず中高生や一般市民も親しみを持て取り、ふるさと飛驒市に愛着を感じ、郷土愛を育む気持ちを醸成することができる内容に改訂編集し、平成29年度中に新しい「ふるさと飛驒市」を発刊します。

3 事業概要

○『ふるさと飛驒市』作成事業 (1,748千円)

- ・平成28年度学習資料作成検討委員会の検討結果を踏まえた、改訂版編集作業
- ・改訂版「ふるさと飛驒市」印刷製本
 - B5版サイズ・カラー250ページの構成で1,000冊を作成予定
 - (学校配布600冊、図書館等配置200冊、市民販売用200冊)

(款) 10 教育費	(項) 1 教育総務費	(目) 2 事務局費
所 属	教育委員会事務局 学校教育課	予算書 P.111

新規 J F A こころのプロジェクト「夢の教室」開催事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
507	ふるさと創生基金	500	報償費	303
	一般財源	7	旅費	193
			通信運搬費	11
(前年度現計 0)				

2 事業背景・目的

飛騨市の未来を担う子どもたちには、「自分の夢をしっかり持ち、希望や目標を持って育てほしい」という思いから、公益財団法人日本サッカー協会が行っている J F A こころのプロジェクト事業「夢の教室」を活用し、現役のプロスポーツ選手やその O B ・ O G などのスポーツ関係者を夢先生として小学校に派遣し、子どもたちに夢や目標を持つことの大切さ、夢をかなえるために何をすべきか、仲間と協力することの素晴らしさなどを実技と講義を通して伝えます。

「夢の教室」を通じ、将来に希望を抱いてたくましく生きる子どもを育みます。

3 事業概要

J F A こころのプロジェクト事業を活用し、一流アスリート（夢先生）と市内小学校 5 年生との触れ合い授業「夢の教室」を開催します。

また、「夢の教室」開催後、子どもたち 1 人 1 人に向けた、夢先生からのサインとメッセージが配られます。

※平成29年度は市内小学校 2 校で実施する予定です。



(款) 10 教育費	(項) 1 教育総務費	(目) 2 事務局費
所 属	教育委員会事務局 学校教育課	予算書 P. 111

拡充 教職員研修及び児童生徒体験学習の充実

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
280	一般財源	280	報償費	100
			旅費	80
			その他	100
(前年度現計 0)				

2 事業背景・目的

新しい時代に必要となる資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指した新たな学習指導要領が、小学校は平成 32 年度から、中学校は平成 33 年度から全面実施されます。

そこで新しい学習指導要領の内容を踏まえ、子供たち一人一人の成長を支え可能性を伸ばす視点を大切にしながら、教職員研修及び児童生徒の体験学習を充実し、教職員の資質・指導力の向上、児童生徒の資質・能力の向上を目指します。

3 事業概要

①【拡充】教職員研修事業 (160 千円)

教職員の指導力や様々な教育課題に対応する力を高めるため、新しい学習指導要領に即した専門知識を有する外部講師を招き研修会を実施します。

また、従来、教職員研修は教員、学校司書、児童生徒支援員を対象としていましたが、新たに校務員及び教育相談員を研修の対象に拡充します。

②【新規】児童生徒体験学習事業 (120千円)

退職理科教員を講師にして、市内の自然資源を活用したフィールドワーク体験学習を実施します。

また、新しい学習指導要領における英語教育を見据え、ALT (外国語指導助手) を活用した市内観光案内体験学習を実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。

(款) 10 教育費	(項) 1 教育総務費	(目) 2 事務局費	
所 属	教育委員会事務局 学校教育課	予算書	P111～112

ふるさと教育推進事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
5,000	ふるさと創生基金 5,000	需用費 1,665
		委託料 1,010
		その他 2,325
(前年度現計 5,000)		

2 事業背景・目的

子供たちが、ふるさとにおける様々な活動を通して、そこに生きる人々の生き様や考え方を学ぶために、各小中学校の学校経営方針に基づいた創意工夫ある地域に根ざした「ふるさと教育」を推進します。

3 事業概要

各校の事業計画に基づき、市内小中学校8校の地域に根ざした特色あるふるさと学習活動を支援します。また各校は、ふるさと学習の成果についてまとめ、成果発表会や学校だより、報道機関への情報提供などを通して、広く市民に活動内容を周知します。

<ふるさと学習の事例（平成28年度）>

- 古川小学校：古川の伝統文化を知る活動、町探検、米づくり体験
- 古川西小学校：郷土料理体験、黒内果樹園体験、ふるさと発見遠足
- 河合小学校：歌舞伎、匠太鼓体験、地域に伝わる盆踊り学習
- 宮川小学校：チャール宮川宿泊体験（そば打ち、郷土料理体験等）、古大尽体験
- 神岡小学校：春慶塗、木のベンチづくり、太子踊り体験、レールウツェンバイク体験
- 古川中学校：市内企業訪問、地域社会人による職業講話、ふるさと版画作品
- 神岡中学校：職場体験学習、カミオカンデ見学、ふるさと合同版画制作
- 山之村小中学校：山っこ獅子、きつねつり、寒干大根作り、山菜採り・加工販売

(款) 10 教育費	(項) 1 教育総務費	(目) 2 事務局費	
所 属	教育委員会事務局 学校教育課	予算書	P111～112

スクールバス更新事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
19,192	過疎債	18,900	事業費	19,192
	一般財源	292		
(前年度現計 0)				

2 事業背景・目的

市では現在、所有するスクールバス20台と民間委託5台により、全21路線のスクールバスを運行し、市内小中学校の遠距離通学者の通学への負担軽減と、児童生徒の登下校の安全確保を図っています。

スクールバス運行にかかる安全管理の面から教育委員会では、市所有の老朽化したスクールバスの更新目安として、「経過年数15年以上、走行距離20万km以上」という基準を定め、計画的な車両更新を図っています。

平成29年度は、更新基準に到達している2台のスクールバスを更新するものとし、引き続き児童生徒の登下校の安全確保に努めます。

3 事業概要

更新基準に基づき、河合稲越車と宮川1号車の2台のスクールバスを更新します。

- ・ 河合稲越車 平成22年製 H29.1月末現在 走行距離 495,733km
- ・ 宮川1号車 平成17年製 H29.1月末現在 走行距離 301,519km



(款) 10 教育費	(項) 1 教育総務費	(目) 2 事務局費
所 属 教育委員会事務局	教育総務課	予算書 P111～112

新規 育英基金給付型奨学金制度の創設

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
12,000	一般財源	繰出金
(前年度現計 0)	12,000	12,000

2 事業背景・目的

奨学金制度は、教育基本法第4条第3項の規定に基づき、能力があるにもかかわらず、経済的理由によって就学が困難な者に対し奨学の措置を講ずるものであり、飛騨市は育英基金を設置し、奨学金として無利子で貸付を行っています。

新規奨学金貸付生の選考では、成績基準と所得基準を設けていますが、近年、1人親家庭の増加に伴い、低所得世帯層の奨学金貸付希望者が増える傾向にあります。

このため市では、要保護世帯・準要保護世帯などの低所得世帯における給付型奨学金制度を新たに創設し、誰もが将来にわたり意欲をもって勉学に励み、就業に向かえる環境を整えます。

3 事業概要

①給付型奨学金事業

低所得者世帯の貸付学生が、大学等卒業後に地元就職した場合は返済全額免除（貸付額全額給付）、地元就職以外では返済半額免除（貸付額の半額給付）とし、優秀な人材育成と若者の地元定着を図ります。

一人当たりの給付型奨学金は、全額給付の場合は最大で360万円（貸付金総額の上限度）となります。

②育英基金繰出金（12,000千円）

給付型奨学金制度の創設により、将来の育英基金の原資を確保するため、基金の増額を図ります。（育英基金残高：平成28年度末基金残高見込 349,389千円）

(款) 10 教育費	(項) 1 教育総務費	(目) 2 事務局費	
所 属	教育委員会事務局 教育総務課	予算書	P. 112

拡充 部活動各種大会出場補助金

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,000	ふるさと創生基金	3,000 補助金
(前年度現計 2,000)		3,000

2 事業背景・目的

市内の古川中学校、神岡中学校及び山之村中学校には27の部活動があり、それぞれ所属する生徒は各種大会やコンクール等での上位入賞を目指し、日々練習に励んでいます。

現在、市では、各部活動で予選大会等を勝ち抜き、上位大会（岐阜県大会以上）へ出場する際の交通費や宿泊費を補助することで、大会出場にかかる保護者や個人負担を軽減し、出場選手が不安なく練習・試合に取り組める環境を整えております。

しかし、部活動においては、技術向上やチーム強化のため、遠征や各協会等が主催する大会へ出場するため遠方に出かけることも多くあり、これらの費用については現行制度では補助対象となっていないため、保護者の負担が大きという声が聞かれます。

このため、上位大会（岐阜県大会以上）以外の大会出場や遠征実施の際の交通費について補助の対象に拡充し、子育て世代の保護者の費用負担を軽減するとともに各部活動の活性化を図ります。

3 事業概要

①【継続】岐阜県大会以上の出場補助

出場選手及び引率者1名分の交通費（バス借上料、道路通行料等）及び宿泊費、傷害保険料、大会参加料の一部を補助します。

（県大会及び東海大会出場：補助率1/2以内、全国大会出場：補助率8/10以内）

※1部活動につき年間1大会のみ。ただし、県大会の上位大会出場はこの限りでない。

②【新規】その他の大会出場及び遠征実施への補助

出場選手及び引率者1名分の交通費（バス借上料、道路通行料等）の一部を補助します。（補助率1/2以内）

※1部活動につき年間2回まで

(款) 10 教育費	(項) 3 中学校費	(目) 2 教育振興費	
所 属	教育委員会事務局 学校教育課	予算書	P. 117

新規 公民館トイレ改修事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,700	合併基金	3,600	整備費	3,700
	一般財源	100		
(前年度現計	0)			

2 事業背景・目的

公民館は、地域住民に密着した社会教育・生涯学習施設として、また、いつでも誰もが気軽に利用できる地域活動の拠点施設としての役割を果たしています。

高齢化が進む飛騨市において、公民館利用者も高齢の方の利用が増加しておりますが、市の公民館には未だ多くの和式トイレがあり、利用者からも和式トイレは足腰にかかる負担が大きいというご意見を伺います。

このようなことから順次計画的に、市の公民館における和式トイレの洋式化改修を行い、どなたでも利用しやすい公民館を目指します。

3 事業概要

①古川町公民館トイレ洋式化改修

古川町公民館全ての利用者が快適にトイレを利用できるよう、各階東側トイレの男女それぞれの和式便器1箇所を洋式化改修します。

②山之村多目的集会施設トイレ洋式化等改修

山之村地域コミュニティ施設の快適な利用と長寿命化を図るため、1階トイレの和式便器を洋式化するとともに、冬季の凍結防止対策として、窓の複層化、パネルヒーターの設置を行います。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 2 公民館費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P. 120

新規 古川町中野区公民館整備補助事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
27,253	コミュニティ助成金	15,000	コミュニティ助成金	15,000
	一般財源	12,253	補助金	12,253
(前年度現計 0)				

2 事業背景・目的

古川町中野区公民館では、住民相互の連帯融和と生活文化の向上を図ることを目的に自主防災活動、子ども育成活動、文化活動、農地保全活動が盛んに行われています。

この度、中野区では地域住民の生活環境の向上、集いの場・憩いの場の確保、更なるコミュニティ活動の発展を目指し、文化財的価値の高い現大村公民館の外観のイメージを残しつつ、現代生活に適応した機能を有する新公民館に建替えることになりました。

市では「飛騨市集落有集会施設整備事業補助金交付要綱」に基づき新築整備に対して支援を行うとともに、併せて、財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として実施する「コミュニティセンター助成事業」も活用します。

3 事業概要

古川町中野区における地区公民館整備費の一部を補助します。

- ・ 平成29年5月着工、平成30年3月完成予定
- ・ (財)自治総合センター コミュニティ助成金 15,000千円
- ・ 集会施設整備事業補助金 12,253千円



(新築予定 立面図)

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 2 公民館費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P. 120

図書館自主イベント事業

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
1,000	一般財源	1,000
		報償費 509
		旅費 207
		その他 284
（前年度現計 679）		

2 事業背景・目的

生涯学習として図書館が果たす役割は、地域の情報拠点として誰もが本から簡単に情報を集めることができ、本に慣れ親しむ機会を増やす場となることです。

より多くの人に親しみやすい図書館として利用していただけることを目指し、季節や伝統行事、対象者に合わせた様々な自主企画イベントを実施します。

3 事業概要

○飛騨市図書館・神岡図書館自主イベント事業（1,000千円）

- ・ おとなの時間 9回（ジャズライブ、図書館閉館後のおとなの時間など）
- ・ 読み聞かせ講座 5回
- ・ 絵本作家講演会 2回
- ・ 飛騨の歴史講座 6回
- ・ ハロウィン企画 10月（バルーンアート、影絵ワークショップなど）
- ・ クリスマスイベント 12月
- ・ 乳幼児対象ひよっこひろば、やんちゃっこタイムほか 随時



(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 3 図書館費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P120～121

デジタルアーカイブ事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
300	一般財源	300	委託料	300
(前年度現計 300)				

2 事業背景・目的

飛騨市内にある各地の祭文化については、地域の少子高齢化、過疎化による後継者不足により、例祭そのものの継承が危ぶまれています。

例祭そのものは地域の文化であり、当然のことながら受け継がれていくものでありますが、後継者不足等により一度、途絶えてしまうと数年後、数十年後に当時のまま復活することは困難であることから、市民が地域の例祭に誇りをもって、正しく継承されていくことを目的として、今ある祭り風景の記録映像を順次、計画的に作成していきます。

3 事業概要

①各地区へのアンケート調査の実施

各地区へのアンケートにより、地域の祭り継承にかかる現状把握を行います。アンケート結果にもとづいて、台帳を作成し、祭り継承が危惧される地域のリストアップと記録映像作成の優先順位を決定します。

②記録映像の撮影・編集委託 (300千円)

アンケートに基づき決定した優先順位にもとづき、計画的に祭り風景の撮影・編集を行います。

③市民が所有する例祭等の地域文化映像の収集

市民が所有する地域の例祭等を撮影した映像を提供してもらい、記録映像として整理保存します。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 3 図書館費
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書 P.121

[拡充] 古川祭研究事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】										
2,299	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫支出金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">300</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">1,999</td> </tr> </table>	国庫支出金	300	一般財源	1,999	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">賃金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,657</td> </tr> <tr> <td>謝礼</td> <td style="text-align: right;">630</td> </tr> <tr> <td>道路通行料</td> <td style="text-align: right;">12</td> </tr> </table>	賃金	1,657	謝礼	630	道路通行料	12
国庫支出金	300											
一般財源	1,999											
賃金	1,657											
謝礼	630											
道路通行料	12											
(前年度現計 350)												

2 事業背景・目的

古川祭に関する学術資料では、「平成元年の古川祭」、「国指定重要無形文化財 古川祭」、「三光台組の歩み・匠の心と町民文化」等が刊行されていますが、故大野政雄先生所蔵資料をはじめ、民俗学や建築学などの研究者や有識者の学術論文が埋もれた状態で多数あります。

平成28年12月に「古川祭 起し太鼓・屋台行事」がユネスコ世界無形文化遺産に登録されたこの機会を捉え、専従の学芸員を新たに配置し有識者等による研究員とともに、市内外の学術資料の収集と古川祭に関する調査研究を進め、「古川祭史」の刊行を目指します。

また、研究紀要の発行や研究成果報告会を開催するなど、市民や祭関係者への普及啓発に努めます。

3 事業概要

①【新規】「古川祭史」の編集

新たに配置する専従の学芸員を中心に、古川祭に関する古書、写真等の収集や関係者への聞き取りによる調査研究を開始し、概ね5年間を目途に「古川祭史」を刊行します。

②【新規】(仮)古川祭研究所の設置

(仮)古川祭研究所を立上げ、研究員は「古川祭史」の刊行に向け文献等の研究・収集を行います。また、研究員は研究発表や研究紀要発行を行います。

- ・ 屋台やからくり等の図面検証、修理の記録や構造等の変遷調査
- ・ 古文書調査や関係者への聞き取りによる、台組ごとの屋台背景に関する調査

③【新規】古川祭の普及啓発

- ・ 毎年調査テーマを立て、年1回研究発表の開催と研究紀要を発行します。
- ・ 古川小学校、古川中学校でのふるさと学習での協力

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 5 文化財保護費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P122～123

新規 江馬館名勝指定記念イベント事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
705	参加負担金	85	工事請負費	300
	一般財源	620	印刷製本費	210
			その他	195
(前年度現計 0)				

2 事業背景・目的

江馬氏城館跡下館跡は、室町時代から戦国時代に北飛驒を治めた江馬氏の拠点として昭和55年に国史跡に指定され、発掘調査の成果をもとに会所、庭園、主門、土塀を忠実に復元し、平成22年より歴史的価値のある中世の武家館跡として公開しています。

平成29年には江馬氏館跡庭園が、岐阜県内では初めて国の「史跡」と「名勝」の2つに指定される見込みであり、名勝指定を記念したイベントを開催し、全国に向け更なる知名度の向上と国名勝「江馬氏館跡庭園」としての活用促進を図ります。

3 事業概要

○江馬館名勝指定記念イベント開催事業（705千円）

中秋の名月（10月4日）の前後10日間に庭園のライトアップをするほか、国の史跡名勝指定の意義や庭園の見所などのレクチャーを受け、神岡名物「蒸し寿司」を食しながら当時のおもてなしを体験するイベントを開催します。

また、郷土の歴史に脚光を当てたワークショップでは、江馬館を会場として、お月見会、だんごづくり、あんどんづくり、百人一首、江馬氏に関する紙芝居などを開催します。



(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 4 文化施設費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P121～122

新規 江馬氏館跡整備活用事業

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
647	ふるさと創生基金	600	旅費	451
	一般財源	47	報償費	144
			その他	52
（前年度現計 0 ）				

2 事業背景・目的

江馬氏と関連する下館跡と6つの山城跡（高原諏訪城跡、洞城跡、石神城跡、寺林城跡、政元城跡、土城跡）をあわせた「江馬氏城館跡」は、昭和55年に国の史跡指定を受けています。そのうち、下館跡は、「史跡江馬氏館跡公園」として平成22年から供用開始し、市民等に親しまれています。

平成29年には江馬氏館跡庭園が、岐阜県内では初めて国の「史跡」と「名勝」の2つに指定される見込みであり、今後、国指定の史跡・名勝としてより効果的な保存活用を推進するため、国史跡指定当時（昭和55年）に策定した「保存管理計画」を「保存活用計画」として改訂する調査研究を行います。

3 事業概要

○史跡名勝江馬館跡保存活用計画の策定（647千円）

全国の遺跡に精通した学識経験者で組織する委員会を設置し、客観性と適正性を確保した指導、助言を得て、国指定の史跡・名勝として今後の維持管理に必要な中長期的計画を策定します。

- ・ 検討委員会、現地踏査の実施（3回）
- ・ 江馬氏に関連すると推測される傘松城跡の国史跡追加指定に向けた調査
- ・ 保存活用に資する中世武士の飾りつけ再現や饗応（おもてなし）の調査

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 5 文化財保護費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P122～123

新規 姉小路氏関連城館群（山城跡）整備活用事業

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
4,291	一般財源	4,291
		工事請負費 2,160
		印刷製本費 980
		その他 1,151
（前年度現計 0）		

2 事業背景・目的

市内にある山城で、姉小路氏が居所として伝わる城館群（小島城跡、古川城跡、向小島城跡、小鷹利城跡、野口城跡等）は、国の城館跡検討会議では群として国史跡レベルの価値があるとされています。

今後その価値を内外に分かりやすく伝えるとともに、市民に山城及び飛騨の歴史文化に誇りを持っていただけるよう、それぞれの山城に合った整備活用を進めます。

3 事業概要

①整備活用検討事業（222千円）

- ・ 対象城館の学術調査研究（資料調査、現地踏査）
- ・ 専門家を交えた山城保存活用の方針検討会議の開催
- ・ 県内学芸員の現地見学、検討会の開催

②整備事業（2,360千円）

- ・ 古川城跡蛤石東屋整備
- ・ 小島城跡サイン整備
- ※（別掲）他課と連携した通景伐採、公園整備
 - 小島城周辺、古川城周辺の不要木除去（農林課・林業振興費 1,296千円）
 - 百足城跡公園整備事業（都市整備課・公園費 7,700千円）

③山城活用事業（980千円）

- ・ 山城跡見学会の開催（専門家を招いた座学、現地ガイドツアー）
- ・ 山城マップ、パンフレット等の作成

④文化財ホームページ制作事業（729千円）

文化財紹介サイトを開設し、山城等の魅力・価値を広く普及啓発します。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 5 文化財保護費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P122～123

埋蔵文化財発掘調査等事業

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】										
19,049	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">国庫支出金</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">9,505</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">9,544</td> </tr> </table>	国庫支出金	9,505	一般財源	9,544	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">委託料</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">16,416</td> </tr> <tr> <td>賃金</td> <td style="text-align: right;">2,483</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td style="text-align: right;">150</td> </tr> </table>	委託料	16,416	賃金	2,483	消耗品費	150
国庫支出金	9,505											
一般財源	9,544											
委託料	16,416											
賃金	2,483											
消耗品費	150											
（前年度現計 11,178 ）												

2 事業背景・目的

遺跡内で開発等が行われる場合には、開発前の試掘確認調査を行い、その結果によっては遺跡保護のための指導や、工事掘削で遺跡が壊れるおそれがある場合には本発掘調査を実施するなど文化財保護法に基づく開発事業と遺跡保護との調整を行っています。

しかし、開発確認で使用している現在の遺跡地図は昭和40年代の調査を基に作成したもので、埋蔵文化財包蔵地内の区域が明確に示されていないことから、詳細分布調査により市内に存在する遺跡の正確な範囲や位置を誰でも分かりやすく地図に示し、適正な埋蔵文化財保護の推進を図ります。

3 事業概要

①杉崎廃寺跡試掘確認調査（667千円）

杉崎廃寺跡の国史跡指定を目指した範囲確認調査を行うとともに、調査結果をもとにその価値を広く普及啓発します。

②試掘確認調査事業（1,333千円）

個人住宅建築や公共事業などの開発が予定される地域の遺跡（百足城跡、上町遺跡など）の埋蔵文化財の所在、範囲、時代、地表面からの深さなどを明らかにし、開発事業と文化財保護との円滑な調整を図ります。

③詳細分布調査事業（17,049千円）

現地調査が完了した古川町及び神岡町区域の遺跡地図を作成し、ホームページ等で公開します。遺跡地図では埋蔵文化財包蔵地の区域を実線で明確に示し、閲覧可能とすることで、開発事業者と教育委員会事務局双方で円滑に事業調整を行うことができます。

また、現地調査で採集した土器等の図面を作成し、詳細分布調査報告書を刊行し図書館等で公開します。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 5 文化財保護費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P122～123

拡充 生涯学習推進事業（公民館講座・歴史講座）

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
4,100	参加負担金	776	謝礼	1,740
	一般財源	3,324	使用料	855
			その他	1,505
（前年度現計 711 ）				

2 事業背景・目的

生涯学習の拠点施設と位置づけられる公民館において、利用者に寄り添ったサービスの提供、館内での展示や講座を開催し、市民が親しみやすい公民館を目指しています。

また、平成28年12月に古川祭がユネスコ無形文化遺産に登録され、平成29年には国史跡江馬氏城館跡下館跡の名勝指定が見込まれる中、文化面での飛騨市の対外的評価はますます高まることが予想されます。一方で、市民には、普段の生活からは「あたりまえ」になっていることが「宝物」であるという気付きを生み出し、それらに誇りを持って後世に守り伝えていくという意識付けに繋げるため、飛騨市にあふれる自然や景観、歴史的遺産、伝統、文化、風俗風習を主軸にして、公民館での座学講座に加えフィールドワークを取り入れた体験型講座を積極的に開催していきます。

3 事業概要

①【拡充】公民館講座・歴史講座開催

従来は座学を中心とした講座の開催でしたが、座学にとどまらずフィールドワークを取り入れた地域の「宝物」を再認識する講座、地域の人と資源を活かした講座を開催し、市民が飛騨の文化を知り、体験できる機会を増やします。

- ・古川町公民館講座 6事業（継続5事業、新規1事業）
- ・神岡町公民館講座 16事業（継続6事業、新規10事業）
- ・歴史講座 6事業（全て新規事業）

②【継続】誰でも自主講座の開催

市民に自分の得意分野を活かした「自主講座」を開催してもらい、同じ趣味や興味を持った人たちが集まりやすい環境を作り、サークルとして独り立ちすることを目指します。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 7 生涯学習振興費	
所 属	教育委員会事務局 生涯学習課	予算書	P123～124

